

## 大阪市立大学学術研究支援部長折原真子さん退任に寄せて

大阪市立大学副学長 金澤真理

大阪市立大学学術研究支援部長折原真子さんが、3月末をもって退任されます。

5年にわたって、本学の運営本部の統括を率いて八面六臂のご活躍、激務の中でも女性研究者支援にきめ細かなご支援を賜りましたこと、特に新大学開学準備にあたっては、ダイバーシティを重点項目に掲げる新大学法人の船出に道筋をつけて頂いたことにつき、感謝の念に堪えません。

折原さんが男女共同参画推進の必要性を喫緊の課題として強調されてきたのは、世界に比べて女性の進出が遅れている日本の状況に鑑みて改善が必要であるというだけにはとどまりません。現実の社会の中にありながら、既存の社会や環境をくもりのない目で観察し、批判的に分析を加え、未知なる課題にも対応しうる力を身につける次世代の育成を担う大学独自の役割について深く理解されたからこそ、学生をはじめ大学にかかわる誰もが、個人として尊重されるべき主体とされ、自由闊達に能力を発揮できる場の設定を早急に実現すべきことを主張されているのです。

折原さんの「女性研究者支援に寄せて」を拝読し、改めてそのご主張に首肯するとともに、私もまた尊敬してやまない村木厚子さんの言葉を引かれ、人を輝かせる出番の大切さを説かれたことに感銘を受けました。村木さんは、困難に直面し、支援を必要とする少女や若い女性を応援し、社会へとつなげる若草プロジェクトの立ち上げにも関わって活動をしておられます。いくつになっても、どんな立場でも「自分(たち)に何ができるかな」という問いをもち、その解決のために努める人を育てることが大学の重要な使命の一つですが、その第一歩を踏み出すには、様々な視角から現状を見通し、問題に気づくこと、それができるような、多様な人の参画がまず必要です。ダイバーシティの実現は、その環境づくりから始まるものだと考えます。

折原さんには、女性研究者支援の重要性への深いご理解に基づく従前のご尽力ご支援に加え、大阪市立大学の前身である大阪商科大学初代の卒業生岡村千恵子さんのご寄付を原資に創設された岡村賞へのご寄付を賜り、感謝の言葉もありません。本賞の創設以来、女性研究者育成には、ロールモデルの育成、優れた研究、教育活動への表彰が重要な役割を果たすことが示されてまいりましたが、ご寄付を励みにすると同時に、今後も女性研究者支援にたゆまず取り組んでいかねばならないとの重責をも感じます。新大学としての出発に折原さんがいらっしゃらないことは寂しく、特に未熟な私には不安なことばかりですが、頂いた様々なお力添えをエールに日々邁進してまいりたいと思います。